

青森市埋蔵文化財調査報告書 第47集

いな やま  
稲山遺跡

発掘調査概報

平成10年度

青森市教育委員会

# 序

青森市教育委員会では、平成9年度に実施した熊沢遺跡発掘調査に引続き、今年度、東北縦貫自動車道八戸線建設工事並びに高規格道路建設促進事業に係わる稲山遺跡の発掘調査を実施いたしました。調査の結果、縄文時代前期と後期を主体とする複合遺跡であることが判明し、竪穴式住居跡や土坑、石棺墓など各種の遺構が確認されるとともに、土器や石器等多量の遺物が出土しております。

本書は、これら調査成果について、写真図版等を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。本書が文化財の保護・活用、歴史学習等、研究者はもとより市民の皆様にとりまして、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

調査の終始にわたる、調査員、関係機関並びに各位からのご指導、地元町会からのご理解、ご協力につきまして、厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

青森市教育委員会

教育長 池 田 敬

## 例 言

## 目 次

1. 本書は、青森市教育委員会が平成10年度に実施した東北縦貫自動車道八戸線(青森～青森)建設工事並びに高規格道路建設促進事業に係わる稲山遺跡の発掘調査概要報告書である。	序
2. 稲山遺跡発掘調査は、日本道路公団並びに青森市都市政策部の委託を受け実施した。	例言
3. 稲山遺跡の遺跡番号は、01045である。	目次
4. 発掘調査は、今年度以降も実施する予定であり、調査全体の報告については、調査対象区の調査完了後、発掘調査報告書を刊行する予定である。	はじめに ..... 1
5. 本書の執筆は、調査担当者である小野貴之がおこなった。	稲山遺跡の立地 ..... 2
6. 発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。	今年度の調査から ..... 3
	いろいろな遺構 ..... 4
	いろいろな遺物 ..... 9
	まとめ ..... 12

青森県教育庁文化課、青森県埋蔵文化財調査センター。

## は じ め に

青森市から関東までを南北に貫く東北縦貫自動車道は、昭和61年7月30日の全面開通以来、首都圏、またそのほかの主要都市と本市を結ぶ経済、流通、観光ルートとして重要な路線です。

しかし、これまで青森県内の主要都市である青森市と八戸市との間を直接結ぶ高速道路は存在していませんでした。

そこで日本道路公団では、青森市と八戸市を結ぶ、東北縦貫自動車道八戸線建設を計画しました。しかし、建設予定地内には複数の遺跡が所在していました。これらの遺跡の対応については、日本道路公団と青森県文化課で協議した結果、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなりました。そして青森市に所在する遺跡については、青森市教育委員会に調査が依頼されました。

当委員会では、埋蔵文化財保護と開発事業との円滑な調整を図るため検討、協議を重ね、その結果調査を受託し、平成9年度には、工事予定地内の青森市岩渡<sup>いわたり</sup>に所在する、熊沢<sup>くまのさわ</sup>遺跡の発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代前期の捨て場、ピット群、集石遺構を検出し、捨て場からは、土器や石器など、段ボール箱で200箱を超える多量の遺物が出土しました。

引き続いて平成10年度、当委員会は、日本道路公団と、地方協力を行う青森市都市政策部との両者からの委託を受け、青森市諏訪沢<sup>すわのさわ</sup>に所在する稲山遺跡の発掘調査を平成10年5月11日から平成10年11月20日まで約半年間にわたって実施しました。



調査前風景

## 稲山遺跡の立地

本遺跡は、青森市の東部、青森市大字諏訪沢字山辺にあります。遺跡は、青森市東～南部に広がる八甲田山のすそのにあたる火山性台地に立地しています。

戸山団地北東の砥取山から北に延びる山地の末端部に稲山があり、遺跡はその稲山の丘陵南東部、標高10～35mに位置しています。付近には稲山の丘陵南西に昭和大仏があります。

青森市には多くの遺跡があり、その数は平成10年3月末で291個所にのぼります。本遺跡の近くにもいろいろな遺跡があります。付近の遺跡の多くは、本遺跡同様、八甲田山のすそのにあたる山地の丘陵末端部に立地しています。

本遺跡の西部の青森市街地では沢田遺跡、小柳遺跡、露草遺跡などの平安時代の遺跡が見つかりま  
す。また、北東部には、縄文時代後期の石棺塞が見つかりしている山野峠遺跡、縄文時代晩期の貝塚である大浦貝塚、縄文時代晩期の竪穴式住居跡が見つかりしている長森遺跡などがあります。さらに、南西部には蛭沢遺跡があり、戸山団地造成に先立つ発掘調査において縄文時代早期から平安時代にかけての多くの時期におけるいろいろな遺構、遺物が見つかりま  
す。またその付近には玉清水遺跡や月見野遺跡が群をなして見つかりま  
す。



遺跡遠景（南方向より）

## 周辺の遺跡



番号	遺 跡 名	時 代
1	稲山	縄文(前・後)
2	沢田	平安
3	小柳	平安
4	露草	平安
5	山野峠	縄文(後)
6	大浦	縄文(晩)
7	蛭沢	縄文(早・前・中・後)、弥生、平安
8	玉清水(1)	縄文(晩)
9	玉清水(2)	不明
10	玉清水(3)	縄文(前)
11	月見野	縄文(前・後)
12	月見野(2)	不明
13	月見野(3)	縄文、平安
14	月見野(4)	縄文(後)
15	月見野(5)	縄文
16	月見野霊園	平安

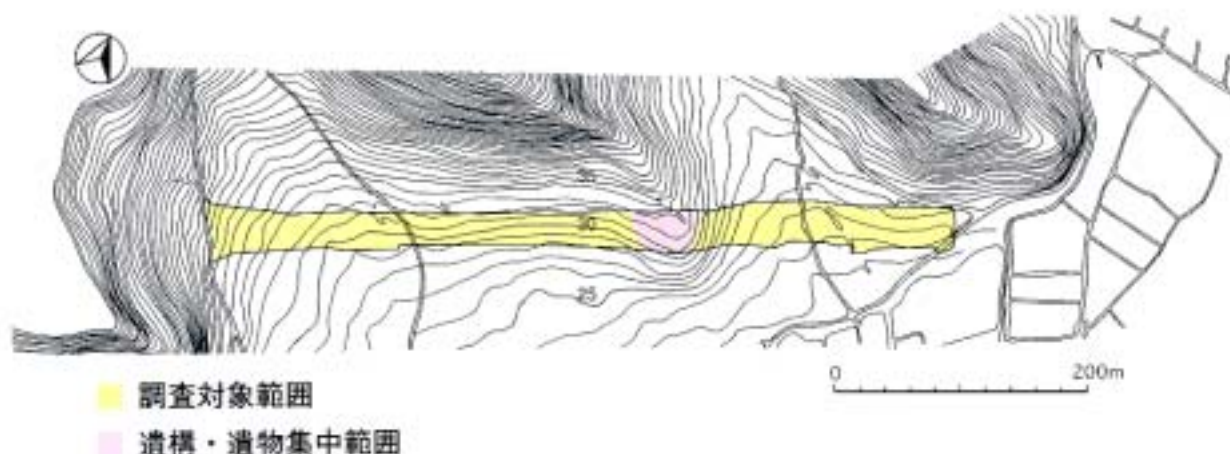
## 今年度の調査から

稲山遺跡の調査対象範囲は、道路建設に係わるものであるため、東から西に約600mにわたる細長い形となっています。今年度は、そのうち中央部から西側の約半分、面積にして7,552m<sup>2</sup>の調査を実施しました。

調査区の地形は、全体として南になだらかに下る丘陵の斜面となっており、そのなかで調査区の中央部は、丘陵が南に強く突き出した台地となっています。

台地の上からは、縄文時代前期と縄文時代後期の二つの時期を中心とし、数多くの遺構や遺物が見つっています。遺構では、土坑群、竪穴式住居跡、石棺墓、配石遺構などが見つっています。また、調査区の中央部は遺物の捨て場となっており、土器や石器など、多量の遺物が見つっています。調査区全体として、遺構、遺物は、中央部の台地を中心に密度が濃く、周辺に向かうにつれて希薄となっており、調査区全体で見ついている段ボール箱で480箱の遺物のうち、遺構内で見つかった遺物も合わせると、中央部の台地からは約450箱の遺物が見つっています。

### 調査対象範囲と周囲の地形



調査区中央部遺物出土状況



調査区西側の様子

## いろいろな遺構

### 土 坑

縄文時代の遺跡には、土坑という地面に穴を掘りこんだ遺構があります。本遺跡の調査では、96基の土坑が見つっています。

土坑には、平面形が円形で、直径が30cmほどの深さもあまりない比較的小型のものと、平面形が円形で、直径が0.6～1mほどで深さも1～2mを計測する大型のものなどがあります。小型の土坑は、遺構、遺物の分布が少ない調査区の西側で30基が散発的に見つっています。これらの土坑は、穴の中からほとんど遺物が出土しないこともあり、時期は明確ではありません。

大型の土坑は、調査区中央部の台地の上で66基が密集して見つっています。

大型の土坑の多くは、フラスコ状土坑、袋状土坑と呼ばれるものです。これらの断面形は、口が狭く、底の部分が大きく広がっています。特にフラスコ状土坑の断面形は、口からいったん狭くくびれており、理科の実験で使うフラスコのような形をしています。

これら大型の土坑の時期は、なかから見つっている遺物の時期や、縄文時代前期及び後期の遺物集中ブロックとの重複の関係から見ると、縄文時代前期と後期の二種類があるようです。

さらに、縄文時代前期と後期のそれぞれの時期のものについても若干の時間差はあるようです。縄文時代前期と後期ではおよそ千年間の時間差がありますが、両時期ともに土坑を構築する場所として台地の上が選ばれています。

これら、袋状、フラスコ状土坑の用途については、一般に食料を貯蔵する貯蔵穴、あるいは墓としての用途が考えられています。



見つかった土坑



土坑のなかで見つかった土器



土坑検出状況

## 竪穴式住居跡

本遺跡の発掘調査では、土坑がたくさん見つっていますが、そのほかにも、いろいろな種類の遺構が見ついています。

縄文時代の人々の暮らす家として、地面を掘り込んで構築する竪穴式住居があります。本遺跡でも複数の竪穴式住居跡が見つかっており、そのなかで一部ですが1軒の竪穴式住居跡を調査しています。

調査した竪穴式住居跡の時期は、縄文時代前期です。全体の形や規模は不明ですが、確認した部分だけでは、長軸7.5m以上、短軸4.5m以上と推定され、全体の平面形は、隅丸長方形もしくは楕円形と推定されます。この時期の竪穴式住居跡としては比較的大きいものと考えられます。

住居構築に際して掘りくぼめられた穴からは、縄文時代前期の多量の土器が見つかっており、住居廃絶の後、廃棄されたものと考えられます。

床面は、硬くしまっており、柱を立てるための柱穴と考えられる穴が床の比較的中央部や床の端に数多く見ついています。床中央部の穴は、規模が大きく支柱穴、床の端の規模の小さい穴は、壁柱穴と思われます。また壁際には、浅く掘りくぼめられた壁溝が巡っています。



住居に捨てられた土器



柱穴の様子



竪穴式住居跡

## 遺物集中ブロック(捨て場)

調査区中央部の台地上は、縄文時代前期と後期の遺物集中ブロックとなっていました。遺物集中ブロックでは、多量の土、礫のほか、土器、石器、土製品、石製品などの遺物が多量に見つかっています。調査全体で見つかった遺物の量は、段ボール箱で480箱です。このうち遺物集中ブロックからは、その大半を占める、約400箱が見つかっています。

調査区内の遺物集中ブロックの面積は、約500m<sup>2</sup>です。しかし、その正確な範囲は、東端を確認しているものの、調査区域外に広がっているため、現在の時点では不明です。

遺物集中ブロックでは、地表面下約20cmの層から、多量の礫とともに、縄文時代後期の遺物が見つかり始めます。縄文時代後期の層は、地点によって異なりますが、40～100cmの厚さがあります。縄文時代後期の層の下には、あまり礫などの混入物を含まない自然堆積の様相が強いと考えられる層があります。さらにその下から、より時期の古い縄文時代前期の遺物が見つかる層が始まっています。縄文時代前期の層は、約40cmの厚さがあります。

遺物のうち土器については、完形のもの、横転して潰れたものなど、個体としての識別が可能な状況で見つかるものが多く、それらは、多量の礫と入り混じった状況で見つかっています。

遺物集中ブロックに堆積している土の状況は、周囲の自然に堆積した地層と異なっており、ローム質など、縄文時代より古い時代の地層に起因す



遺物集中ブロック堆積状況



竪穴式住居跡上部の堆積状況



る混入物が多いものです。また、見つかる礫には、大きく二種類があります。ひとつは、台地の地面を深く掘り込むと出てくる黄褐色の角張ったゴツゴツしたものです。もうひとつは、角がとれ丸い河原石状のものです。どちらの礫も、縄文時代の層で多量に見つかるためには、深く穴を掘ったり、川などから運んできたりなどという、人の行動による経過が必要と考えられます。

これらのことから本遺跡の遺物集中ブロックは、人の手により作り出されたものと考えられます。



礫と遺物の出土状況



礫の出土状況

## コラム 水晶

本遺跡では、土器や石器などの遺物のほかに、81点の水晶が、主に遺物集中ブロックにおいて、縄文時代後期の遺物と共に見つかっています。それらは、母岩についたままの群晶がほとんどですが、先端部分に擦痕があり、石器としての使用の可能性を推定できると鑑定されたものも3点含まれています。

青森県において、縄文時代に水晶を石材として用いたものは、類例が少ないものの六ヶ所村上尾駮(2)遺跡の石製品、階上町滝端遺跡の石鏃(新聞報道による)、青森市三内丸山遺跡の石鏃(三内丸山遺跡対策室からの教示による)などがあります。また、山梨県など産地から良質の石材を得ることができる所では、石鏃などの石器の石材として用いられています。

現在のところ、発掘調査地点においては、自然の状況で水晶が見つかることはないと考えられるため、これらの水晶は、石器の石材などの目的のため遺跡に運ばれてきたものではないかと考えています。今後の調査により、これらの水晶の性格もより明らかになると思われます。



水晶出土状況



水晶出土状況

## 石棺墓・配石遺構

縄文時代後期の東北北部の遺跡では、石を用いる特別な遺構が見つかることがあります。

そのうちのひとつに石棺墓という遺構があります。

石棺墓は、主として板状節理などの扁平な石を用いて棺の形に石を組んだもので、死者を埋葬する施設です。

この時期の本県を含む東北北部には、再葬土器棺墓という再葬を行う埋葬法があります。石棺墓は、その一次埋葬に使用されます。石棺墓に遺体を埋葬して、遺体が朽ちる一定の期間の後、遺体を取り出し、その後、二次埋葬用の土器などに人骨を丁寧に納め、土坑などに再び埋葬します。

本遺跡では、縄文時代後期と考えられる1基の石棺墓が見つっています。調査区の端に位置しており、一部調査区外に続いていて、全体の3分の1～半分が見つっている状況と考えられます。規模は、長軸が見つっている部分で約70cm、短軸が約60cmです。長軸は、およそ南北方向を向いています。本遺跡の石棺墓は、6枚の板状の石を立てて棺の側壁としています。その石により囲われた中には、2枚の板状の石が横たわっており、恐らくは、棺の蓋石と考えられます。

青森市内で石棺墓が見つっている遺跡としては、山野峠遺跡があります。山野峠遺跡では、列状に配置された石棺墓群と石室に納められた二次埋葬の土器棺が見つっています。

そのほかの石を用いた遺構として、本遺跡では、配石遺構が台地の上で見つっています。

配石遺構には、石を組んだ組石、石を集めた集石、石を列状に並べた列石、石を立てた立石などの種類があります。配石遺構の大規模なものには、環状に石を配した環状列石があります。

青森市では、青森市野沢のざわの国史跡である小牧野遺跡こまきのにおいて、三重の輪により構成される、直径約35mの環状列石が見つっています。その外帯と内帯は小牧野式と呼ばれる特殊な石の並べ方により規則的に構成されています。

本遺跡では、不規則に石がまとまり集まっている状況の配石遺構が見つっています。石のまとまりの一部は、弧状あるいは線状に並んでいるようにも見えますが、耕作等の影響を受けているかも知れません。石の直下では、土坑が見つっており、墓穴の可能性も考えられます。



石棺墓確認の様子



山野峠遺跡の石棺墓



配石遺構確認の様子

## いろいろな遺物

### 縄文時代前期の土器

縄文時代前期の土器を主体とした遺物は、台地の上の遺物集中ブロックを中心に、台地のすその部分まで広がって分布しています。

本遺跡で見ついている縄文時代前期の土器は、円筒土器と呼ばれるものです。その大半は、バケツを細長くしたような形をした、円筒深鉢形土器です。土器を作る際には、粘土のつなぎをよくするため、植物の繊維を混入させています。同じく本遺跡から見ついている土器でも、前期の土器は、千年ほど後になる縄文時代後期の土器と比較すると、焼きが甘く、サンドイッチ状に土器の内外面と内部では色調が異なります。

土器の表面には、縄を撚りあわせた縄文や、撚った縄を棒状のものに巻き付けた絡条体を転がしたり押し付けたりして文様を施しています。土器の口の部分である口縁部と胴の部分では、多くの土器で異なる文様を施しています。同じ縄文時代前期の土器でも古いものは、口縁部に縄文や絡条体を転がすことにより施文しており、新しいものの多くは、口縁部に縄文や絡条体を押し付けることにより施文しています。これらの土器は、青森県の同時期の遺跡で見ついている土器と同様で、円筒下層b式から円筒下層d式に相当すると思われます。

また、これらと共に、文様が青森県では、あまり一般的ではなく、ほかの文化圏内で使用されていた土器の影響を受けたものではないかと考えられる土器片も見ついています。

### 縄文時代後期の土器

今年度の調査では、段ボールで480箱の遺物が見つかっていますが、そのなかで、約300箱が縄文時代後期の遺物です。

後期の土器を主体とする遺物は、前期の遺物と比較すると、分布範囲はやや狭く、遺物集中ブロックを主体に台地の上に分布しています。



縄文時代前期の土器



前期の土器の出土状況



前期の土器の出土状況



変わった文様の土器

本遺跡で見つかった縄文時代後期の土器は、後期の始めごろのもので、なかでも十腰内式土器に相当するものが主体を占めます。

縄文時代前期の土器のほとんどが深鉢形を呈していたのに対し、後期の土器には、浅鉢、深鉢、台付鉢、壺などいろいろな器種があります。また、壺形土器を焼き上げる前に土器を切断した切断土器も見つかります。前期の土器と比較すると後期の土器は、薄手で焼き締まりの良いものです。

土器の表面には、棒状工具などを使った沈線を主体に文様を施しています。そのほか、網目状撚糸文や縄文などを施文しています。

丁寧に施文される精製土器と、無文あるいは単調な施文の粗製土器があり、精製土器の多くは、沈線により渦巻文や入組文が施されています。また、赤色顔料を用いて器面を赤く彩色している土器も見られます。

土器の文様は、縦に連結する渦巻文から横に展開する入組文へと移り変わっていき、より新しくなるにつれて、土器の上半部に文様が集約され、下半部の無文の部分広がる傾向があります。



## 石 器

本遺跡では、<sup>せきぞく</sup>石鏃、<sup>せつび</sup>石匙、<sup>いしべら</sup>石篋、<sup>おおしいたい</sup>大石平型石篋、<sup>へんべい</sup>半円状扁平打製石器、<sup>ませいせきふ</sup>磨製石斧、くぼみ石、たたき石、<sup>すりいし</sup>磨石、石皿などのいろいろな石器が見つっています。

狩猟に使う石鏃には装着部分についていろいろな形態のものが見られるほか、長さ約1cmの小型の石鏃も多く見つっています。

石匙は、つまみの付いたナイフで、縦型と横型の二種類のものがみつっています。

石器には、一定の時期に特有のものがあり、本遺跡では、縄文時代前・中期に特有の半円状扁平打製石器や縄文時代後期に多く見つかる大石平型石篋が見つっています。

くぼみ石は、自然礫を使用した石器で、特に数多くみつっています。

## 土製品・石製品

見つかった遺物には、土器や石器のほかにも、いろいろな土製品や石製品があります。

縄文時代前期では、土製品として、土器片利用土製品があります。石製品では、岩偶、<sup>けつ</sup>状耳飾があり、ほかの遺物と共に、廃棄されたような状況で見つっています。

縄文時代後期の土製品としては、土偶、<sup>たくがた</sup>鐸形土製品、耳飾、土器片利用土製品などがあります。石製品では、三角形岩版、円形岩版、球状石製品、有孔石製品などがあります。

これら土製品・石製品もほかの遺物と同様に縄文時代前期では台地の上からすそのにかけて分布しており、縄文時代後期ではやや狭く、台地の上に分布しています。

一般に、縄文時代前期と後期の二つの時期では、土製品・石製品の種類が前期に比べ、後期では、遺物の種類が飛躍的に多くなります。

本遺跡でも、縄文時代後期では上記のように、いろいろな種類の遺物があります。そのなかでも、三角形岩版と円形岩版が数多くみつっています。

これら土製品・石製品のうち、耳飾などは、装飾品と考えられます。それ以外のいろいろな種類の遺物には、用途ははっきりしないものもありますが、精神生活に属する遺物として、祭祀やおまじないなどに用いられるものが多いようです。



石鏃、石匙、大石平型石篋、石篋



磨製石斧、<sup>せきすい</sup>石錘、くぼみ石、半円状扁平打製石器、石皿



見つかった土製品



見つかった石製品

## ま と め

稲山遺跡は、青森市の東部、諏訪沢にある稲山の丘陵のすその、標高10～35mに位置しており、縄文時代前期と後期を主体とした複合遺跡です。

今年度、青森市教育委員会では、面積7,552㎡の発掘調査を実施しています。

調査の結果、調査区の中央部にあたる、稲山の丘陵が南に突き出す標高25～35mの台地上では、縄文時代前期と後期の遺構や遺物が密集した状況で見つかっています。

台地の上は、遺物集中ブロックとなっており、そこでは、大量の土や石が層をなして積み重なっているほか、それらと共に廃棄されたと考えられる土器や石器などの遺物が多量に見つかっています。積み重なる地層の上から下に向かうにつれて遺物の時期は古くなり、比較的上層からは縄文時代後期、下層からは縄文時代前期の遺物が見つかり、遺物集中ブロックからは、段ボール箱で約400箱の遺物が見つかります。

また、遺物集中ブロックと重複して多数の遺構が見つかっています。その主体は、66基の土坑です。土坑の時期には、縄文時代前期と後期のものがあります。大半の土坑の断面形は、袋状、フラスコ状を呈しています。調査区外にはまだ多くの土坑があり、台地全体に広がっているものと考えられます。そのほかの遺構には、縄文時代前期の竪穴式住居跡、縄文時代後期と考えられる石棺墓、配石遺構があります。

遺構や遺物が密集する台地のほかに、調査区西側では、散発的に分布する30基の土坑が見つかっています。小規模のものが多く、大半が時期不明です。遺物の分布も極端に少ないものでした。調査区西側は、なだらかな斜面ですが、地面を少し掘り込むと水が湧きだしてくるため、当時土坑などを構築する地点としては不向きだったかも知れません。このことも本遺跡において台地上に遺構が密集している理由のひとつと考えられます。

発掘調査は、今年度以降も実施する予定であり、台地上の縄文時代前期と後期の二つの時期における、各種遺構の分布の広がりや配置状況など、稲山遺跡の性格がいっそう明らかになるものと考えられます。



作業風景

## 既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蚩沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
〃		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
〃		1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』

# 報告書抄録

ふりがな	いなやまいせきはつつちょうさがいほう							
書名	稲山遺跡発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	小野貴之							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 0177-34-1111							
発行年月日	西暦 1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
いな 稲 やま 山	あおもりし 青森市 すわのさわ 諏訪沢	おおあざ 大字 あざやま 字山辺	02201 045	40° 49 2	140° 47 30	19980511 ~ 19981120	7,552	道路建設（東北縦貫自動車道八戸線建設工事並びに高規格道路建設促進事業）に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
いな 稲 やま 山	集落跡	縄文	土坑	96基	縄石土石	文土 製	器器 品品	
			遺物集中ブロック	1				

青森市埋蔵文化財調査報告書 第47集

## 稲山遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成 11 年 3 月 31 日

発行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 0177-34-1111

印刷 長尾印刷株式会社

〒030-0931 青森市平新田字森越17-1

TEL 0177-26-7121